諸經
巻八紀行
完
中村俊定文庫
文庫 18
514

おーまむんいそ　杖をあるをハ
年年毎年長床の西と所々の端を
作きはんの所　移ふるとて　年を
を　秋江四　蟹　置て　石
西陸　水の陸の　おのつから　を
河　及ら　月　を　除て
鄙　各を　ひむろ　杖　年
三　旬　そうう　年の　旬　をりをう

鍾　と　鍛　つ　く　は　を　も
う　ん　ば　と　を　人　論　と　僕
ふ　を　も　く　も　何　の　月　次　象　に
執　て　屯　あ　の　を　屋　を　を　人
諸　を　主　人　も　僕　も　を　に　遠　毎　年　古
人　を　有　砂　て　買　を　系　年　を　い　物　を
ば　て　買　を　系　年　を　い　物　を
ば　を　ば　の　人　い　鍛　よ　に
ば　を　直　を　に　に　を　を　を　荊　蘇　工

安永四年之

内閣文庫

内閣文庫

紀行

乙未の年一七月六日なりけるに北陸
道よりは乃原文五首給はりて文を初めて
筆し給へり名所を尋ねて日々
筆とり給ふ紀行を賞へ給ふ
其行末のことは出雲を尋ねの
北陸の道を尋ぬ弁望のたるしるし詠ひ
筆とりとめ置て出ぬ少為本り

中村俊定文庫

土車松市川新堀ちと掉ひして行往来
いつる宮より京し舟をあらて道の中を淀焼
りの田より畑より稲ちさ和米稗九穂ムよく実
ちて豊饒の秋をとゝ行い情ちと
いつる霜ちこさ所ちこう里人の家居
ゆも坊ちらしく鎌ちを吾の郊野に刈る丶
こゝを秋ちのちく光より秋落ちゑうかるゝ
ちゝ荒さるしに歩ちゝ行い真ゆ
其ロ赤ちらしとうゆいつる里ちたうちて

失ちう新僧ひちいちを坂東ちとゝゝ利根の
川風ちゝゝゝゝゝ宮ちゝ日新ちる
人しちゆひしゆ暮ちゝて坂ちゝよ岩しゝ
ちゆ樟ちゝ笠ちる新とちて見て六ちの
影ちちゝ示ゆの中ちゝかちちゝ西山岸の
秋風二州をちゝ新生ちゝ社や物ちの
樟ち樫ち新ちゝゝい師の遺ちゝ山
ちゝの新ゆちゝ吟ちゝ陪行をしむ
すゝ残ち意しく往ちゝ地ちゝ俳ひ今ちゝ像を
所ゆ地して懐古ちゝいい称ちしく少ちゝ

さいつ頃竹乃家に會す

秋空や月さし出れハ芦の花つる

暁ちかく雪取僕乃文をとりかへりて變殿
はるに秋を紀し白帆に風を受て松の表に
遠舟のいとなみなく石見山を越ゆてかくく
さる子は江に來ぬなりとの市石坂に笑みなて
是より曾我に入秋中ありしにおもひ來りて宮島
龍子も思ひ出して蒼芦親子獣を好らし義
東国に遊ひ其解の秋中一日にて寵かぬしと
ちくさを鐘ににきはし旅菜に酔たる声

いさや月の名殘とて人これ一盃飲すみ姓出し
川口の旅行に一葉の夏を得て東海を泳きのくなき

歌僊一折一順

後乃月出しよをりの浮綾か浮　令則
ひらし名やみん出泉かに冷　西丹
秋おさ子伯母君は露めてる乳て　柳枝
新もちへる剝し命の声　石雄
雅よ升子惚り画かてもいみつ子　仙雲
並ちいる乳人　箕の名業　二風

鬱たる田土を人力をもて
入境力修を門より出るの
新たくひらく根の嶽より照つる
人々を思ふ三のたまちを
多しるし寺を焼おい西しるて
ふかしまるる女佛より宋女より
ひらしとちるし一葉へ月ゆ
岸力小舟より月を伝ひて
ちる魂の森ちるへいるる
ちる

独則
垂爲
而博
寧国
柳湖
祖原
斎使
西笛
青遊

土窓より吹入るるかぜ——
なかしるるの花ちる春　而安
年を去る　こうを　四光
吾　　寄稿

夜うのを伝るる若則力詞爰山生を力
なる一收年子禁紙を伝ひ来て原ふ
ありちるる四船しる少ちる敬をたて孫々
——うく兼生る忘伝示
ぬうるる杉風ちる身をちひ
ちり月千かりうる弟弥生ちる朝西ちるんの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]朝や[illegible]の時

[illegible]

[illegible]

杉露庵

目次定連　江都

[illegible]の戸へ[illegible]の[illegible]　[illegible]連

[illegible]の[illegible]の[illegible]　石井

[illegible]　泉之

[illegible]の煙[illegible]　大来

[illegible]を清[illegible]　籟之

十六[illegible]の雪を[illegible]　笙泉

[illegible]花や[illegible]　面和

市中や[illegible]　吳川

秋も[illegible]　江左

[illegible]　夢堤
[illegible]　遠堤
[illegible]　巳雄
[illegible]　蓑原

[illegible]
[illegible]　孤松
[illegible]　桃夭
[illegible]　平礎

[illegible]
[illegible]　嶽雪

[illegible]　泉路
[illegible]　聖香
[illegible]　亞石
[illegible]　南鐵
[illegible]　松子
[illegible]　二曉
[illegible]　金枝
[illegible]　水吉
[illegible]　麦粧
[illegible]　石丈

五月に彩雲の出よりて
名月や摺鉢よりて人を誘
ひて茶に入る　雲外
うらうらとなる——雲外さらば
つらつら雲や　第十　寮坊
玉墻

武蔵

五城　五雲　赤の女　赤壁　玉墻

寒柳のうらうらとなる夕霧が
ちらつく蛾　さてうつくしき
伊山路や　雲しらうなの夢
故つ雲の　雲なもうつる夕ぐれ

事務　蛾く　芝鬼　字曉

雲行しや　第十　——初の雲
稲つゝよ大井　萩の雲　雲
雲ゝ　ゆく少仲の中やうくを
野分も　所に　雲を

女　桃牛　和紅　ちらく

山かるよ　立うを　行や　女帝　花
雲吹て　形　雲かるる　日和　つる
一面よ　孔つ　萩の　花ちゝ　うを
ちらしと　赤の　雲　雲　古井　が

徐風　白水　市井

夕　空やかくも　雲を　秋　の日
雲しの　つうを　月　よ　うの

正岩　平岩　路尹

足曳の山鳥の尾の長尾の時ゆ雪

鶯ゆ雪ゆ花ゆ小夜ふけ

一夜こそ雲ゆ雪ゆ猫の恋

柳ちるや舟ちらし雪の上

秋ふかしあらぬ姿を人ぬ

白妙の雪ゆ月ゆ鶴の

弥吉一場籠のもとを羽織ぬ

ふる鉢振ふて西ふる花ぶ

雪の巻をそえて蓑山ちら

雪巻　一ふる雪　冀田文御　秋十十月　糠田　鶴宮　錦市　湖光　房町　其山　ちる山雪　北川京　丘里

三

ふる雪ふる雪ふる月花　川柳　幸仙

下絵

雪ふる雪ふる山ちる　鶴子　雪井

嶽ゆて春と雪しくゆ雪ふる　柳枝

山ゆ雪ゆ清ゆの流ゆ　至鳥

仏ちの賢ゆ地ふる雪ふる　石林

山寺の秋夕ふる雪の巻　秋　徳例

小松多ゆ花ゆて花雪の流ゆ　四光

岩柿の山ゆ赤ちゆ地ふる　玉月

秋笠ふる雪人ふる雪ふる　寧固

松小径に嵐吹きし木の實哉　仙里
情婦の出て行室の妻戸かな　魚淡
夕暮や伽藍の如く鷺の影　魯遊
急ぎしに控へつゝる青田かな　銀浦
静さは簾菖に露の光りけり　柳渓
去年秋の声なきし小夜時雨　二鳳
蕣や白露ながらし太綱かな　徐綃
門明て見るや青田に蛙なき　百安
蕣や露に見えと思しに　百雉
家の外や子を呼ぶ盆の月　呉朝

田鶴きく秋まだき田かな　瓊仕　烏歌
唱蛙花のなくしの咄よる　紫花
川畑を株の絆の田和哉　古柳
てらしかも萬くも連ね長縄かな　雪鉄仕　魚石
くろくろと絆千々よ夕霞　徐舟
名月や思ひ遠き流れ火　眉天
声出して踊る声の聲哉　青義
走る池や籾縁の例の影　梁川　桑戸
月の初雪を蝶の枝かな　梅設
青麦やうしろに春のあはれ　晴波

[illegible]

千翠　寺鈴

寺路　湖丁

大盧

坂日　時行

東金　雨林

林雪

お幸　林翠

五松

五

[illegible]

春の雪　雪溪

田宮　巴井

白明

山夕

紅葉　時亞

雨伊　雪成

湖川

坂田　夜松

横芝　梅止

賀田　素仙

一

茶の戸に焚かるゝ落葉かな　戸田 市柏
青雨やそよふしたる風涼る　亀洞
おりふしも句ひありけるは蓮の花　地仙 之氏
藪入や一すぢりてつる雨や雪　蕗文
まつ汐や窟ぬくるを冊に縁　柏雄
翡翠の飛や野川にたゆる雨なり　春湖
菖蒲しや床く連ねる三葉殿　読風
川狩に川こうり来し男かな　大傘
子雛多しや子亀もうる浜の児　新居 林明
耕すきをのさまして田おしかな　雪舟

毛虫焼やあふり中く辻千浮　山輝
椎樫の咲さしくも暮るゝかな　夏口
紬くむ子うら中しら野辺かな　尾張 仙列
門涼みふれ夕暮の浮雲のうち　軽舟
うつくしき今朝の雨夜の門はなり　境冬
行きや姿利休をつゝむたゞし傘　宗須
春雨や出し若柳に風つる　琴文
廿四日の先こしも止ぬしぐれかな　追月
名月や更て古郷のたよりのよ　小松 茂杉
新田や稲刈しまる秋日和　京田 止喰

桂一日の夢をかくて書田が　吉田　至孫

達磨忌やさびしも稲ちる雨　用田　多保

雲霧や高郷中を通る雲　青塘

葉広の明かるき雨　孫右衛門　写東

夕ぐれや帯の這ふ色　戸蘭

秋ふかしうつらかくこゑ　雲木　玉河

初雪や小菊ちるより雪　茅渟

稲川やしら栽て夢の宮　青雨

雪やや山の湯ハ雪ふる　雨桂

蕭蕭い様ふる雨　梅明

碎ける中秋を笑ふ　岡田　桐好

夕秋の地ふ月さび　世　北楼

月ふくるまぶ書ハ　秋雲

秋ふる中雪ふるしと軍の杖　小稲系　多語

一日ふ日陰のふる　魚明

塔ふの雲強ふ　飯田　春時

桃花ふ名ふ　次子　ふ

夕ふ星ふ　片雲

夕ふ星ふ　風の音　写松

葉の本ふ葉ふ本ふ　戸塚　澄雨

出代や ちくらの人乃中　鶴又

ちくらの浦の浮木や　大磯　多賀

きさらぎに春の来ぬ　秋　大梁

鶯や竹の梅の　図　西　谷楽

春の風　三芳　市川

入梅時や雲の多き　奥御殿　鈴乃

正堅

五月雨や清き水　沼田　巴猿

夏の月ちくらの磯の　麦象

夏の日ちくらの磯の　光　水布

山蔭もなの花も白き　新田　之

夏の山ちくらの磯の　梅川

野社の一本の柳　ちくら　遠寺

ちくらの中に春の来ぬ　西花

大道の新緑　春乗　西花

思所やちくらの春の　重乃日　花情

かくるほちくらの春の　五川

梨の花ちくらの春の　赤花

ちくらの中に春の来ぬ　野秋

ちくらの梅を十しと　重乃　如舟

ちくらの中の春の　梨の花

ちくらの中の春の　ちくらしと　柳子　注　柳花

山ちかや新宮ちかし　帰雁

猫の子のいちこよ門田哉　柳志

ちらつかて雪ちらつかて雪ちらつく　在蘆

投網や鮒ちらす簗の月　信徳

春こなても特長ふかの新宮哉　上京井　沢雄

等ちらす宗山寺や雪の雪　醉雪

ちらぬ――木槿のなの雪ほそ　寄太

ちらうてよちらうや桜の地――ちる　ト二

夕雪や屋敷の中に狐なく　信川流長政　波上

雪やまよ言竹籠の名ちか　玉山寺　珠帝

ぶうぶ――い稲ちらちらちらちら　亦酔

ちらしと言ても桜乃枝幹哉　同廣

柏枯ち実のちらしけや柿乃葉　蓋月

ちらちら狐の住ちよ枯地原　吸什

山雪ちら蕊踏ち里よちく多鈴　和業

ちらちらのちらよ出の新山陰ちる　知二

ひいの花屋もちらは咲よちら　南牧　一茶

落葉の砂ちてしぬよ入よちら　引月　大雪

蕊ちち――の乱しちちよ落葉哉　月不　猴面

芳野しち花ちち散哉　梧井

ちらちらや梅ちらさし樫皮す　呉岑 朱綫
燕子花ぬましとして朝霞　玉繩
岸棧
火とほしの流るゝや秋のいく花　雑岑 悦乎
山住の嬉しや出きの紫　楽紀
世の中や岩根子もの出れハしてて　翠笠
老の秋やよしなき娘も遠ふなる　漣々
さしかゝる寒かなや籾のかゝり　霞石
桐の葉の落てまゝし細中　碩茶
鴨の水や流れさきみ羽汰のひ　寂 素月

麦藁に身のよなりし花野かな　少年 楳姿
一と朝の露へ出けり木の実拾　鳳尾
二三丁下るも躊躇新酒かな　百收
船よりの夜くらしや秋の暮　北老
訓てさく鴬よ〆秋や粟の穂ヌ　鼓川
朱らかの立しめて押し湖かな　千丈
歌人のしやちゃちものても菊の花　野語
水菜のかさなり合ぬ秋の雨　笠後
岸棧泉 青井
甲てめのよき掬ひよし日ゝ花かな
身でも打起ても ゆつきゝなかな　歟柱

甲賀

和歌　鬱金

新茶　一枚

蔦風　一枚

一宇　一枚

一丘　一枚

似白　一枚

五出　一枚

高冊

夕くれや花帰り山を雨ふり海

高岳

桑京　撰題

ふれやの柳をあるよ雪

烟姿

ゆきやゆくゆくゆくの雪

金井

ゆくやゆくゆくの雪

五政

ゆきやゆくゆくの雪

横雨

ふかよ雪ふ月さやの雪

河竹　之栄

朝風よ雪ふふふふ雪

絵巻

ゆきふるものやいろ雪

5回　左十

風しとふふふふ杉の雪

如毛

山寺やくらき所ハ菫の巣　雨考

夏めしや菜たね干しハ川の跡　之机

雉啼と鶯ハいつ見ても老し　麦二

幸引し沼の椿の一木こゝろ　路国

罧に世すさむ家も花哉　麦雨

秋しるや尾上の森をそめし　楚川

うし所や入梅の晴るゝを標ちく　其明

播州

千網に浮らぬ浦の柳哉　如左

幸江

かくして匂ふ花さへ哉　呉川

岸をみつゝ鶯の出事ゝある　左光

藤さくも茅家なる木陰哉　汀の浦　淀ゝ

うつ袖を払ふし遊ぶ出雨子　乃山

伊勢

冬牧に入ある月宵根らず　松坂　呉扇

青鳥を啼なし雉子の声なり　芹鶯

年よ失や老ら花の枝の花そこ　坐泉

代枝子棟の中もむや小松原　子繹

葛入乃らしらに枯一葛矢哉　荷香

梅ちるや　かなる人を　詫　斐舟

桜の花　白きうつるは　の　ちる　柳葉

入相の　鐘を　惜む　人の　なる　急閑

ちらしさいたる　ちるを　ちる　斗墨

下野

はしや　寒に　むしを　ほす　萍玉

出羽

月ちかし　時も　ちるを　なる　羽扇

越中

夢ちるや　夕　雲　はん　鶏の　ふる　卜市

陸奥

物ちる　世の　ちる　先　寺　乃　秋　西園　也衆

うつる　ちや　を　谷　由　しく　を　ふる　柳巽

ぬぎ　ひし　を　寒　帰　乃　殿　の　ちる　ず　白川　香黒

ふを　寒　よ　殺　め　ちる　い　義　ち　加賀　松　柯

地　ふる　月　ち　ふる　ち　ち　ゆ　し　ち　ふ　使　尼　喜蓋

花　の　山　や　鶯　さ　を　しく　ち　ふ　碎石

蜀　黍　の　ち　花　ち　人　の　ち　る　柳兆

寒　う　ち　の　か　し　ち　ち　や　少　夜　の　風　乙人

時　乃　夜　こ　ち　ち　ち　ち　春　の　雨　吳生

風　の　ち　ち　ち　ち

文ちかの時と聖山より
雨乃郡の原乃羽書に奏聞ち
多賀の里の川乃名ハ
新陸

新しき信の名むし籠、この
夕ちれや国分の時うゝ五く蛙
新陸の小雨芦ゝ無らく

室都

ちゝの北山ちふ乃ちち

洁吏
蒙二
河源
蘭坡
宋楚
石嶺
寶水

川ちの中をかゝつめて　覚海
荒小田をちゝめて西ふ小野ち　江都
柳ち弁ちかちゝ　文尺
ちちゝゝ杉ちやちゝ春乃雲　桂雲
多乃月榛糸を吹き　多成
紫御糸の葉ちかゝりめちゝ　緑玉
一番面工の坂くゆらゝ　ちち
坂ちの月や矢紫里　甲元
坂ちの里　乃の下　石月
坂ちの　ちの　ちゝ下京ち　乃元
坂ちの　ちの　ちゝ　吟山

あけはなや灰のはちつく藍畠　大坂 旧国

さくらさへ川の花…川　作子 翠樹

啼くゝ牧乃…かな　鷺風

稲乃をい晴沽乃て拿一ツ　江戸 常舟

風や萩乃ちらく浮の海　伊勢 蟾蘿

れし…や…葉の花さくいちをと　京都 訥丸

秋乃雨…も…て蛙なく　棕蔓

棹さす…富川し流…　城中 康工

秋風や蚊乃…絵仏かな　伊勢 膳雲

日暮る…桜乃白ひかな　紀伊 仙旭

青柳やこころゆれて崖くら　備后 壽朶

蓮灰の花しるる胡蝶一ツ　加賀 加傚

舟の…は雨乃…春の空　真光

ち…や…し…場来る　奥羽 櫻苑

順礼の…桜かな　子明

山…乃家はいつ…笈ある　甲斐 李言

日の暮し千…の空一ツ　古條

二百十日海も…暮に…り　大牛

秋ふかく嵐より歯のうらくすぐ　寺尾

茶木さくさくしく煙の秋やうる　石明

百姿の秋と埋もる　金　このる　字石

四時

夕月やひとりとぼる　白ひめる　字仙

五月雨よりぬるる竹の子　柳　岩柳

子九ふりうつ厚つうり来る　入仁

笑ふ花の名仏や吹色みちる

岩

主肆　一鼠堂
彫工　木之里刀

直章